

UNIVERSITY CONSORTIUM KYOTO



財団 大学コンソーシアム京都
法人 The Consortium of Universities in Kyoto
URL <http://www.consortium.or.jp>



特集 1

第7回 頑張ってます!京都の大学・短期大学
新たな改革へチャレンジ!

京都文教大学の新たな挑戦
- すべては「現場主義教育」から始まる -
【レポーター】本多志帆(インターンシップ生)

特集 2

戦略的大学連携支援事業
京都地域での取り組み Part.3

TOPICS
PROJECT REPORT

Information
近日開催予定の行事・イベント

2009.9 No.36



【大谷大学短期大学部】
〒603-8143 京都市北区小山上総町

新たな

改組!

チャレンジへ

大学コンソーシアム京都の加盟大学・短期大学の

変化を追うこのコーナーでは、

2010(平成22)年度に、改組、学部・学科を新しく設置する

大学・短期大学、をピックアップいたしました。

今回は、13大学・短期大学を取り上げてご紹介いたします。

既存の魅力ある学部・学科は、各大学・短期大学のホームページが
各大学・短期大学にお尋ねください。
貴方が求める「学び」が、きっとそこにあります!

池坊短期大学

スキル × ホスピタリティ = キレイ

2010年4月「ドクターズクラーク」と「食とビジネス」を学ぶ!
文化芸術学科に2つの資格取得型ビジネス系コース誕生!

日本社会が抱える大きな課題としてあげられるのが「医療」と「食」の問題です。「地域医療の疲弊」の原因の一つとして、医師の事務作業の増加による回診や治療時間の減少が挙げられ、医師不足の現状と相まって深刻な問題となっています。一方では、「食品偽装」の事件から、消費者は食に「安全・安心・適正な価格」を求め、企業イメージやブランド価値を高める上で、欠くことのできない要素となっています。こうした状況を鑑み、時代のニーズに応える人材育成をめざし、本学では2010年4月、医療クラークコース、フードビジネスコースの新設を予定しております。

学 科 文化芸術学科

コース 医療クラークコース **新設**(認定校認可申請中)

コース フードビジネスコース **新設**(認定校認可申請中)

**専門性とホスピタリティを備え、医療を支える
医師事務作業補助者(ドクターズクラーク)を目指す!**

医療クラークコースは、医療行為と医療事務の機能分業化と医療現場の質の向上に貢献し医師の事務作業をサポートする医師事務作業補助者(ドクターズクラーク)を養成します。医療に関する高い事務処理能力、情報処理スキル、幅広い教養、コミュニケーション等のヒューマンスキルをトータルに身につけることができるカリキュラムを予定しています。また医療事務系資格の取得も重視し、知識と実践力、資格を兼ね備えた即戦力を育成します。



医療事務関連の専門知識と資格を身につけホスピタリティ溢れるドクターズクラークへ

**「安全・安心」はもちろん「おいしい」、
「楽しい」を提供するスキルを身につける!**

フードビジネスコースは、食の本質である「安全」「おいしい」「適正な価格」を認識し、それらを支える多角的な知識を修得。食品ビジネスに関わる産業分野で、人々の期待と現状とのギャップを埋められる「食ビジネス」の提案を行うことのできる人材を育成します。また、「ホスピタリティ=おもてなしの心」を培い、次代のフードビジネスの担い手をめざします。



食の「安全・安心」を届け、フードビジネス業界で活躍するスペシャリストに!

国際文化学科が2コース制で新しい学びをスタート

学 科 国際文化学科

コース 現代アジアコース **新設**
欧米文化コース **新設**

異文化を学ぶ目的や方法とは？

異文化を通して自分たちの文化を見つめるのが、比較文化の学びです。その研究対象は無限にあり、幅広い選択肢から自由に選べます。

同じ意味を持つものでも、国や気候風土によってその現れ方は大きく異なります。それらを比較することから、自文化や自分自身の個性を新たに発見していくことができるのです。



現代アジアコース

アジア諸地域の現代文化事象に注目する一方、その文化的源流に注意を向けながら学びを深めます。主な対象は、中国、韓国・朝鮮、インド、そしてチベット。それらの国々の文化について、歴史や言語、生活文化から主体的に学んでいきます。

欧米文化コース

イギリス、ドイツ、フランスなどのヨーロッパ諸国や、アメリカを中心に学びます。それぞれの文化の多様な側面(地理、歴史、芸術、社会制度等)を学んだ上で、コミュニケーションや環境、日本文化との比較などの視点からアプローチしていきます。



日本の歴史と文化のまんなかで、 京都が築いた「知」にふれる。

日本の歴史・文化の中心地として発展してきた「京都」の知を学び、その知を未来に生かす方法を身につけます。本学のロケーションを生かして、アクティブに歴史を学ぶ学科が誕生します。

学 科 歴史文化学科 **新設**

コース 歴史コース **新設**

日本の歴史、伝統、文化の全体を学びの対象とし、卒業研究では特に人物史に重点を置いて学びます。人々の営みの集積である歴史から、自らの人生を切り拓いていくための考え方を学びます。

コース 京都文化コース **新設**

日本の政治・経済・文化の中心的な役割を果たしてきた「京都」そのものを学びの対象とするコースです。卒業研究では年中行事などを具体的にとりあげ、その文化的意義を現地調査を通して探究します。



学びの特色

フィールドワーク

京都の中心地にある本学から、さまざまな史跡、文化関連施設を訪問。体験型の学びをカリキュラムの柱とします。

多彩な専門科目

京都の価値の本質をとらえるため、歴史・文化にかかわる多様なテーマに多角的にアプローチして重層的に学びます。

少人数制ゼミナール

問題意識を発展させて主体的に学べるように、1・2回生を通じて演習科目を設定。考え抜く力とプレゼンテーション能力を高めます。

学びを生かした就職

日本の歴史と京都の文化に関する深い知識を活かし、観光業界、伝統産業界、文化産業界、和洋菓子・食品の販売業、呉服店、ホテル・旅館、寺社などに就職先も広がります。



学部 外国語学部

学科 国際教養学科 **新設** 【定員:60名、2010年4月開設】

“知識”と“行動”を結びつける方法を学ぶ 「国際教養学科」を開設

2010年4月、「言語を通して世界の平和を」を建学の精神に掲げる京都外国語大学は、外国語学部にも8言語の学科に加え『国際教養学科』を開設します。新学科では、「共生・協調・協働」をキーワードに、知識と行動を結びつける教育を展開します。また、オフ・キャンパス・プログラムとして、海外留学・海外インターンシップ・国際ボランティア・フィールドワークから選択し、国際社会で活躍できる実践力を備えた人材の育成をめざします。

国際教養学科の特色

“英語+ ”の実践的な語学教育

国際舞台で活躍する上で欠かせないのが英語。授業ではプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどを積極的に取り入れ、豊かな英語コミュニケーション能力を養成します。また、英語と別の言語を同時に学び、比較する中でその相違点、類似点、共通点を明確にし、各言語の特性をより深く理解できる「2言語同時学習」などを取り入れ、英語に加えてもう1言語の習得をめざします。

世界と共存するための教養教育

異なる文化を背景とする人々と共生・協調・協働していくためには、世界の文化を多角的に理解し、国際社会における課題を学際的な視点からとらえることのできる幅広い知識、そして課題発見・問題解決能力が欠かせません。国際教養学科では、「国際地域」「国際関係」「国際ビジネス」の3つの領域を設定。それぞれの領域における諸課題について、専門的に、また横断的に学びます。

国内外における多彩な体験教育

世界を舞台に活躍するために必要な実践力・人間力を養うため、「教室での学びを、体験を通して確かめる」というプロセスを重視しています。2・3年次では海外留学・海外インターンシップ・国際ボランティア・フィールドワークなどのオフ・キャンパス・プログラムを選択必修としており、学びと実践を有機的に融合させることができます。

4つのオフ・キャンパス・プログラム

海外留学

短期留学として海外の協定大学で「International Business and Leadership Challenge Program」を実施し、グローバルなビジネス環境における問題の理解や世界の諸地域でのビジネスについて学びます。また、1年間の派遣・認定留学制度により、外国語の習得はもちろん、日本での学びをさらに深めることができます。

海外インターンシップ

海外の協定大学と連携し、現地の国際企業、NGO、NPO等の組織でインターンシップの機会を提供します。また、観光ビジネスの分野でツアープランニングをめざすプログラムや、海外の航空関係の訓練施設でのCA研修を受けるプログラムにも参加できます。

国際ボランティア

本学のボランティアと現地のボランティアが協力しながらプロジェクトを進めます。その一例として発展途上国から日本に来ている農村指導者をめざす人々と、オーガニック農業や貧困削減計画などについて話し合うセミナーへの参加や、農村指導者養成の研修施設でアシスタントとして活動。また、アジア地域での女性の読み書き等を支援するプロジェクトや、発展途上国での学校支援と文化交流への参加や、貧困削減のためのリサーチを行います。



フィールドワーク

教室を離れ、実際の現場でデータや資料収集をしながら研究を進めます。例えば、模擬国連などの国際会議や平和研究セミナーに参加したり、各国の大使館や国際機関等でのリサーチやNGO、NPOで働く人々へのインタビューを通して、各自の研究テーマを深めます。また、国際観光文化都市・京都の文化情報の海外発信など、フィールドワークは海外、国内の双方で可能です。



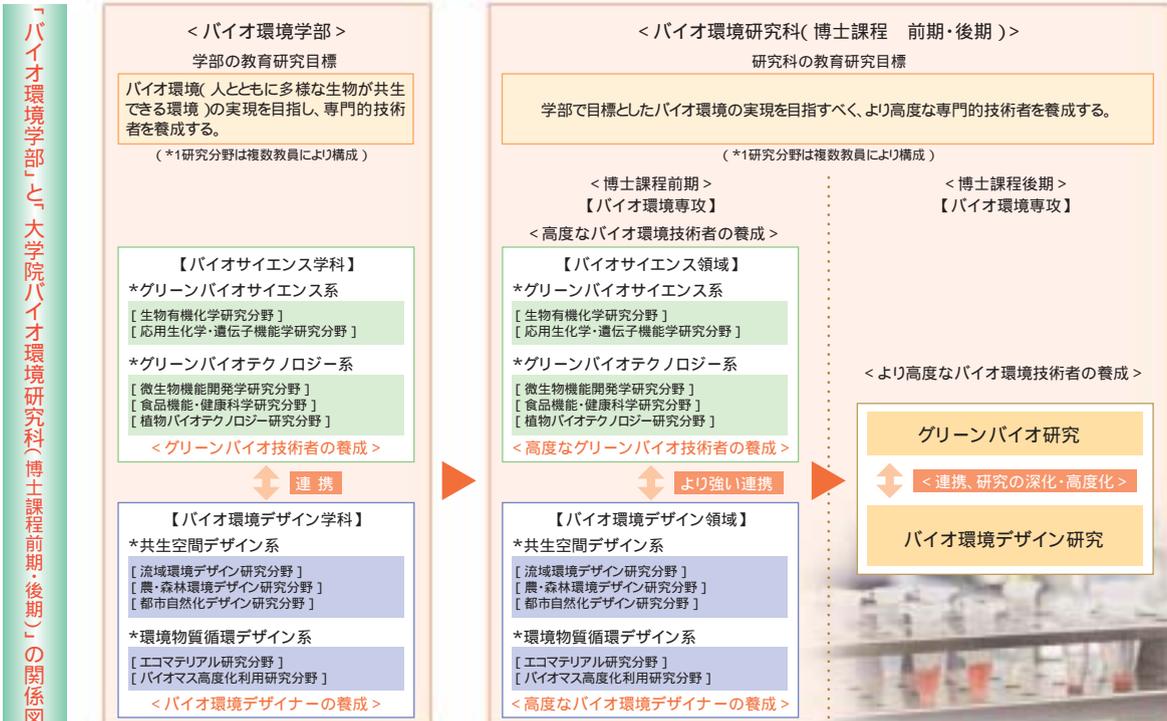
研究科 バイオ環境研究科

2010年4月博士課程前期、博士課程後期同時開設予定(設置認可申請中)

バイオ環境実現のためのリーダーとして活躍できる人材の養成

バイオサイエンスと環境学を連携させ、人とともに多様な生き物が共生できる環境(バイオ環境)の実現をめざすという教育理念にもとづき、博士課程前期及び博士課程後期を設置します。両者の連携をより深めるため、

大学院は、「バイオ環境専攻」のみで構成。博士課程前期では学部をベースとした専門研究分野を中心に他分野とも広く連携することで、各自の専門研究分野に「バイオ環境」の視点から複眼的思考のできる高度な技術者を養成します。博士課程後期では複眼的研究を更に進めて、グリーンバイオ研究とバイオ環境デザイン研究を深化・高度化させ、「バイオ環境」の新しい研究領域を開拓できる人材を養成します。2010年4月に博士課程前期及び博士課程後期とも、同時に開設する予定で、現在設置認可申請中です。



記載内容は予定であり、変更する可能性があります。

学部 キャリア形成学部 **新設**

学科 キャリア形成学科(社会福祉士養成課程含む)

自分の「生き方」そのものを探求し、
人として、社会人として必要な
「総合的社会人基礎力」を修得。

本学科は、専門職の養成や専門分野の学びを目的とした従来の学科の考え方は違い、将来どのような分野へ進んでも、社会人として必要とされる「総合的社会人基礎力」を修得することを提案する、関西初の新しいタイプの学科です。最終的に目指す職業分野として、「教育」「社会福祉」「ICTビジネス」「観光」「ファッション・ブライダル」「住居・インテリア」の学習も行います。「こころの教育」を基盤に、高度な教養とその実践的なスキルを身につけ、真に社会が求める人材を育成します。

「総合的社会人基礎力」の修得を支える
「3つの認識」と「2つの力」



学部 健康科学部 **改組**

学科 健康栄養学科(管理栄養士養成課程)

健康づくりを支える
栄養管理のスペシャリスト「管理栄養士」を育成。

一人ひとりの個性や到達度に合わせたきめ細かな個別指導を重視する本学独自の「国家試験対策システム」で現役合格を目指します。管理栄養士の学習に必要な化学や生物の基礎も、個々のレベルに合わせ学べる科目があるので安心です。また、健康運動実践指導者の養成校として、「栄養学」「健康科学」「医療」のコラボレーションを進め、生涯にわたる健康づくりを支援できる管理栄養士を育成します。

学部 人文学部 **改組**

学科 心理学科(臨床心理学コース、心理学コース)

人の「心」を理解し、「リエゾン」能力を養う。

1年次に心の基礎を学習し、2年次から、それぞれの関心に応じて、臨床心理学コース、心理学コース(発達心理学・社会心理学)のいずれかを選択します。社会の中で自分を活かしながら他者と共生し、人と人、人と社会をつなぎ合わせる力、「リエゾン」能力を身につけ、従来の心理学の枠組みにとらわれない体験に根ざした学びを通じて、人や環境に「やさしく」なれる人材を育成します。

学科 文学科 日本語日本文学専攻

京都で「日本語」「文学」「歴史」を学び、
真に自立した国際人を目指す。

「日本語学」「日本文学」「書誌文化学」「京都歴史文化学」の4つの領域を設け、日本を再発見し、自己のアイデンティティを確認し、真の国際人を目指します。京都ならではのその史跡や名勝を体感する実地研修を多くの授業に取り入れ、ワクワクするおもしろさを実感しながら、専門的な理解を深めていきます。見て、触れて、読んで、話して、書いて、「自分の力で考える人」「豊かなコミュニケーション力を持つ人」を育成します。

学科 文学科 国際英語専攻

世界を視野に入れ、幅広く英語を学び、
社会で通用する実用的な英語活用スキルを修得。

一人ひとりの英語力アップを保证する、4年一貫の本学独自のプログラム「KEEP (Koka English Education Program)」により、個々のペースで確実にステップアップできます。また、「英語コミュニケーション」「児童英語」「異文化理解・観光文化」の3領域では、多くのフィールドワークを体験し、世界に向けた英語活用スキルを修得します。留学制度も充実しており、海外・国内、そして期間など多様なニーズにお応えするさまざまなプログラムを用意しています。

研究科 大学院工芸科学研究科

専攻 バイオベースマテリアル(BBM)学専攻 **新設**
(平成22年4月設置予定)

バイオベースマテリアル(BBM)とは「生物資源と基にする循環型工業材料」を指します。

目的 人類が今直面している課題は、地球環境を守り、かつ物質的にも豊かな社会を継続させることです。そのためには、石炭・石油を出発原料とする工業材料生産を、生物資源由来とする循環型の生産へ転換しなければなりません。京都工芸繊維大学には世界的レベルにあるバイオベースマテリアル技術があり、それを基盤とした新しい教育研究を展開し相応しい人材を育成します。

目指す人材 これからの工業用材料の主力となるバイオベースマテリアル及びそれを利用したプロダクトに対する深い知識をもつだけでなく、学習と研究の結果を国際的的社会において活かせるための方向性を理解できる人材を育成します。

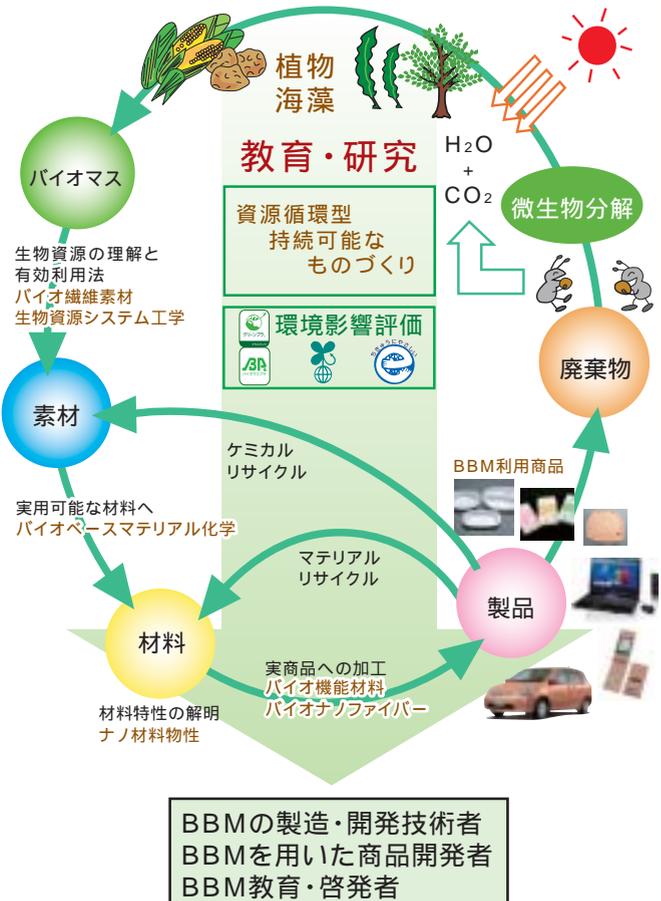
教育方法 産業領域間のバリアーを低く、よりインテグレートされた教育を実施します。産業界等、外部機関との連携育成を実施します。グローバルインターンシップの履修の他、国際セミナーの履修により、学生の国際的通用性を高めます。社会人学生については、大学院設置基準第14条の教育方法の特例を適用し、学びやすい環境を提供します。

循環(再生可能、非石油)材料であることに注目したBBMの現在の用途



*紹介内容については、現時点の予定であり、変更があり得ますのでご留意下さい。

化学・生物・工学系学部卒業生



BBMの製造・開発技術者
BBMを用いた商品開発者
BBM教育・啓発者

学部 総合生命科学部 新設

生命のなりたちを学び、食糧危機、環境破壊や感染症など人類と地球の課題に挑み、3学科で問題解決をめざす。

バイオテクノロジーや生物化学の分野で、ユニークな教育・研究を行ってきた工学部生物工学科。その学問領域をさらに発展させ、2010年4月に新しく「総合生命科学部」がスタートします。

生命システム学科・生命資源環境学科・動物生命医科学科の3学科を開設。

「生命科学の世紀」といわれる21世紀に、高度な専門知識と技術・応用力を身に付け、社会で活躍できる人材を育成します。



まだ解明されていない「生命の不思議」にアプローチ。

学科 生命システム学科

生命システムの理解とその破綻(病気)の原因を追究

まず、生命を「個々の分子のはたらき」として理解します。その上で、それぞれの分子の機能を細胞・組織・個体など「各レベルでの生命活動」に結びつけて、統合的に学ぶところが生命システム学科の特徴。タンパク質の管理システム、神経組織の構築、防御システムである免疫について、また、生命システムからの逸脱であるがんの研究などを行います。



主な進路

製薬・食品メーカーなどで、人々の「生命」や「健康」を支える。理学、医学、薬学などの分野で活躍する研究者や技術者を育成。製薬や食品などの企業をはじめ、医療・医療機器メーカーなどへの就職が考えられます。大学院への進学も積極的にサポート。

食糧危機や地球温暖化を解決するために。

学科 生命資源環境学科

資源の活用と環境型社会の構築をめざす

世界人口が急増する中、地球環境の悪化と資源不足に悩む現代。生命資源環境学科では、限りある資源を植物や動物のパワーを用いて大切に使う方法を追究。ストレスに強い植物を作って環境破壊を防いだり、生活に役立つ遺伝子を微生物から発見したり、生物の「種の保存」の戦略を探るなど、地球と人類の未来に役立つ研究を展開します。



主な進路

食品、化学、環境関連企業などで、食糧、環境問題の解決をめざす。社会的ニーズが強まる食糧・環境問題の解決に取り組む人材を育成。卒業後は、食品、農林水産業などの研究者や技術者、化学メーカー、農業や環境問題に携わる公務員やNGOスタッフなどが考えられます。

動物の力を借りて、病気の解明をめざす。

学科 動物生命医科学科

感染症の予防や食の安全などに役立つ「動物医科学」

新型インフルエンザやプリオン病(狂牛病など)の感染症は、現代社会の国際的な問題のひとつ。また、製薬業界で薬品や食品の安全性の確認のため、「信頼性の高い動物実験」に対する必要性も高まっています。動物生命医科学科では、動物のさまざまな感染症の解明や、実験動物学、動物病理学の基礎および応用を徹底的に学びます。



主な進路

製薬企業や各種化学企業などで、「人々の健康や食の安全」を叶える。感染症についての知識を身につけ、実験動物の適切な管理が行える技術者を育てます。就職先としては、製薬企業や食品企業、獣医関連の研究所など。動物実験のエキスパートとしての活躍が見込まれます。

学部 人間発達学部 改組

人間の発達について教育・保育と言語・文化理解の総合的視点から探究します

人間発達学部は、児童教育学科と英語コミュニケーション学科の2学科により、人間の発達について教育・保育と言語・文化理解という総合的な視点から教育・研究を行います。

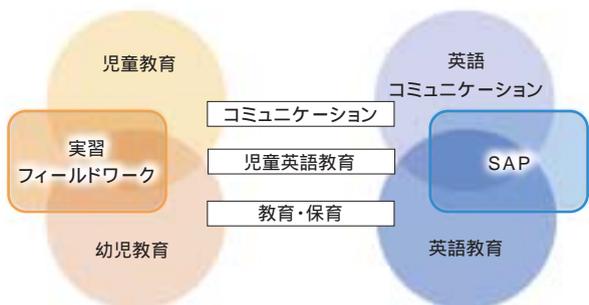
人間関係の基盤となる豊かなコミュニケーション能力の養成を教育の中心に据え、グローバル化する社会のなかで多文化に対する深い理解と他者への共感を養い、世代や文化を越えた良好な人間関係が創造できる人材の育成をめざします。国内外でのフィールドワークや体験学習を積極的に取り入れ、現代社会に対応した探究的な学びを展開していくのが大きな特色です。

人間発達学部のイメージ

教育の目標	重視する教育方法
<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の養成 多文化理解と他者への共感 世代・文化を超えた人間関係の創造 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークや体験学習

児童教育学科

英語コミュニケーション学科



学科 児童教育学科

小学校教諭と幼稚園教諭の一種免許状の取得をめざす「児童教育コース」と、主に幼稚園教諭一種免許状と保育士資格をめざす「幼児教育コース」を設置します。児童教育コースでは、2011年度から完全実施される小学校の新学習指導要領に基づく「外国語活動」に対応し、英語コミュニケーション学科と連携して、児童英語関連科目を開講します。



児童教育学科では、教育実習や保育実習のほかに、1年生から小学校や保育園などのフィールドワークを展開。こどもと保護者を理解する実践の場を多数用意しています。

取得可能資格・免許 小学校教諭一種免許状(申請中)/幼稚園教諭一種免許状(申請中)/保育士(定員変更60名 80名申請中)など

学科 英語コミュニケーション学科

英語圏の言語や文化、翻訳・通訳などを学び、ビジネスをはじめ多様な分野で活躍できる人材を育成する「英語コミュニケーションコース」と、異文化理解をベースに中学校教諭と高等学校教諭の一種免許状取得をめざす「英語教育コース」の2つのラーニングコースを設置。2回生後期には、6か月間の必修留学SAPでは、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどの提携校に留学。英語運用能力の飛躍的向上をめざすとともに、積極的に異文化交流を行います。



6か月間の必修留学SAPでは、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどの提携校に留学。英語運用能力の飛躍的向上をめざすとともに、積極的に異文化交流を行います。

取得可能資格・免許 中学校教諭一種免許状(申請中) 高等学校教諭一種免許状(申請中)など

5つの領域が誕生。
専門分野を横断した学びを
提供します。

成安造形大学は、学生の潜在能力や可能性を引き出し、新しい価値観をもつ人材を育成できるよう、2010年より各専門分野を横断して学べる教育システムをスタートします。これに伴い、「総合領域」「イラストレーション領域」「美術領域」「メディアデザイン領域」「空間デザイン領域」の5領域13コースを開設。各領域の専門性を高めるカリキュラムを整える一方、各自が学びたいことに応じて柔軟な教育ができるよう、領域やコースを横断して学ぶためのカリキュラムを導入します。「専門分野を究めたい」、「幅広い分野を学びたい」、どちらの希望にも対応できる、本学ならではの新しいシステムです。

領域 総合領域

コース デザインプロデュースコース

アート&デザインを通して、社会に新しい価値観を提案するジェネラリストを養成する領域です。芸術文化についての知識、コミュニケーション能力、デッサンを中心とした基礎造形力などを総合的に高めていきます。

領域 イラストレーション領域

コース イラストレーションコース

情報を伝達する「コミュニケーションアート」、人々の感情を動かす「エンターテインメントアート」の2つの役割をもつイラストレーションについて、幅広い手法を学びます。手で描き、伝えていくよこびを発信していきます。

領域 美術領域

コース 日本画コース / 洋画コース / 現代アートコース

素描・絵画・立体造形など、専門的な表現力を高める一方、自由なテーマで制作に取り組むことで、身のまわりの世界と自分自身の本質を探ります。豊かな表現力と創造力をはくむことで、アートの力を広く発信していきます。

領域 メディアデザイン領域

コース 写真コース
グラフィックデザインコース
アニメーション・CGコース
映像・放送コース

情報を発信する側と受け手をつなぐ新しいコミュニケーションを探求する領域です。写真、映像、グラフィック、CGなど、さまざまなメディアについて基礎から学び、メディアミックスによる表現の可能性を広げていきます。

領域 空間デザイン領域

コース 住環境デザインコース
プロダクトデザインコース
ファッションデザインコース
テキスタイルアートコース

モノや空間に新しい価値や意味を与えるデザイナーを育てる領域です。建築、インテリア、家具、ファッション、テキスタイルなど、あらゆる造形や素材の基礎を学ぶことで、豊かな発想力と柔軟性を身につけていきます。



photo by kenshu shintsubo

施設の充実を図ることで、
成安の4年間を応援します。

造形センター新設

学生の基礎造形力の向上を目的とし、2010年度から新たに造形センターを設置します。ここには、既存の鉄工室やデッサン室に加え、木工・モデリング・版画のための機材設備が充実。技術員の指導と安全管理のもと、全領域の学生が利用できる共同施設として、ものづくりの力を磨く環境がさらに整います。



photo by kenshu shintsubo

研究科 グローバル・スタディーズ研究科 **新設**

専攻 グローバル・スタディーズ専攻

現代世界はいま、民族問題、国際紛争、平和構築、経済格差、ジェンダーなど、国家や地域の枠組みを超えた諸問題を抱えています。そして、このグローバル化した問題に向き合い、人類が共生していく仕組みを作ることができる知性が求められています。

同志社大学では2010年4月に、既設のアメリカ研究科が蓄積してきた教育・研究を継承発展させ、「アメリカ研究」、「現代アジア研究」、「グローバル社会研究」の3つのクラスターからなるグローバル・スタディーズ研究科を新たに開設します。

多様化する現代社会、国際社会において、学際的・総合的能力を人と社会のために有効に活用できる高度職業人、教育者、研究者を育成することを目指します。

グローバル・スタディーズ研究科

グローバル・スタディーズ専攻(前期)

- ・アメリカ研究クラスター
- ・現代アジア研究クラスター
- ・グローバル社会研究クラスター

グローバル・スタディーズ専攻(後期)

- ・アメリカ研究クラスター
- ・現代アジア研究クラスター
- ・グローバル社会研究クラスター

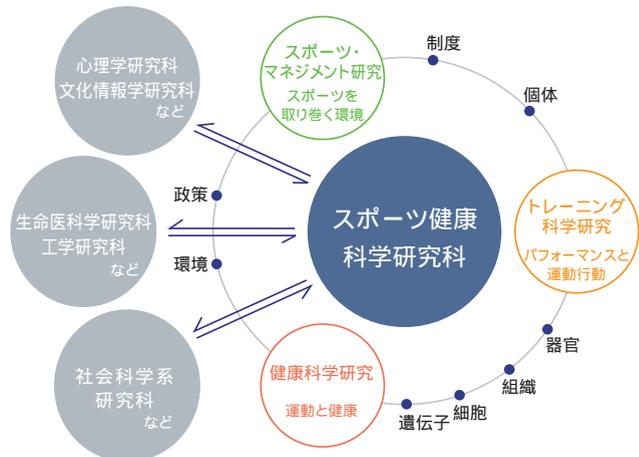
アメリカ研究科

- アメリカ研究専攻(前期)
- アメリカ研究専攻(後期)

研究科 スポーツ健康科学研究科 **新設**

専攻 スポーツ健康科学専攻

同志社大学では2008年4月に「スポーツ健康科学部」を設置。本研究科は、その学部教育を高度に発展させ、さらに深い専門的知識と理論を修得した高度専門職業人や研究者の養成を目指して開設します。本研究科に設置されるのは、健康な身体づくりのための「健康科学」、最先端のアスリートにも対応するスキルアップのための「トレーニング科学」、そして社会に開かれたスポーツ環境を実現する「スポーツ・マネジメント」の3つの領域。修了後の進路としては、博士(後期)課程への進学、中等教育における保健体育教員、民間の医療・健康関連産業、自治体等における生涯スポーツ指導者などが想定され、本研究科で修得した専門的かつ総合的な知見を活かし、社会のさまざまな分野で指導的役割を担うことができる人材を育成します。



2010年4月、日本初となる「歴史学部」が誕生

2012年に開学100周年を迎える佛教大学では、その関連事業として教育環境のさらなる充実を進めています。2010年4月に現在の文学部の学び内容を発展的に改組・再編。仏教学部・歴史学部・文学部日本文学科が加わります。7学部13学科となり、少人数制でさらに専門性の高い授業を実現します。

学部 仏教学部 **新設**

学科 仏教学科(浄土・仏教コース、仏教文化コース)

仏教を研究することにより、平和と共生を実現する実践哲学・生の哲学(人類の生きる道)を追求します。インド・中国・日本などにおいて展開された仏教の思想と歴史を文献によって研究する「浄土・仏教コース」、日本を中心としつつアジア全域にわたる文化現象としての仏教を学習・研究する「仏教文化コース」を設置。生・老・病・死をめぐり人生において遭遇する問題を自ら考え、解決していける人間力のある人材を養成します。

学部 歴史学部 **新設**

学科 歴史学科
(日本史コース、東洋史コース、西洋史コース、京都学コース)
歴史文化学科
(考古学・地理学コース、民俗学・文化人類学コース、
芸術文化コース、京都学コース)

歴史学科、歴史文化学科にそれぞれ4つのコースを開設。日本史、東洋史から考古学まで幅広い領域の歴史学について学べます。4年間を通してのゼミ教育を推進し、1年生から徹底した歴史学の研究方法を身に付けます。また、京都という立地をいかしたフィールドワークも充実しています。歴史学の学習を通して、自ら見つけた課題を客観的分析に基づき、解決できる能力を養います。

学部 文学部

学科 日本文学科 **新設**

日本文学・日本語学および書道文化に関する質の高い教育を実施。フィールドワークや実技・実習を重視したゼミ教育や「原典体験」の充実をはかりながら、日本語の高度な運用能力を養い、文学や伝統芸能をはじめとするさまざまな言語文化に対する造詣を深めます。3年次には教育や文芸創作、マスコミ・出版関係など、卒業後の想定進路に対応した5つの「キャリアプログラム科目」も用意する予定です。



スポーツと健康を探究し、明日の社会に活かす。

スポーツや健康に対する関心が高まるなか、2010年4月スポーツ健康科学部が開設予定(設置認可申請中)です。総合大学のメリットを活かし、自然科学と社会科学の領域を超えた学際的な視点からスポーツや健康へアプローチします。国内外の関係機関、大学、地域、企業と連携した実践的な教育を行い、将来の進路や関心によって専門分野を学べる4コースを展開。理論と実践力を兼ね備え、リーダーシップを発揮できる人材を育成します。

関心や進路にあわせ、 3回生時に4コースから選択。

1・2回生では、主に基礎専門科目を履修し、大学での学びに必要な学習方法やスキルを習得。総合的・学際的な学問領域の理解を深めるとともに、地域やプロスポーツの現場と連携したインターンシップにも挑戦します。3回生からは希望進路に応じたコースを選択し、ゼミナールごとに異なるスポーツ健康科学のテーマを探究します。



コース スポーツ科学コース

自然科学的な観点からスポーツを理解するとともに、その理論を実践へ活かすスキルを学びます。トレーニング法・運動メカニズムなどを、運動生理学・力学的な側面から科学的に理解し、スポーツの実践に応用できる方法を探ります。

コース 健康運動科学コース

健康の維持・増進のために、運動がどのような役割を果たすかを理解し、健康にかかわる具体的なプログラムについて学びます。生活習慣病のメカニズム、栄養学などを学び、健康を高めるプランを提案できる人材を育てます。

コース スポーツ教育コース

保健体育教員、競技スポーツや健康教育の指導者にかかわる指導スキルを学びます。子どもの発達促進、スポーツ心理、学校体育・学校保健、スポーツ指導法など幅広い分野を通して、さまざまな側面からスポーツの楽しさを伝えられる指導者を育てます。

コース スポーツマネジメントコース

スポーツ関連組織の運営を効果的に行う方法について学びます。スポーツ用品メーカー、スポーツチームだけでなく、総合型地域スポーツクラブなどを対象に、スポーツ団体の活性化や安定的な経営などスポーツマネジメントについて探っていきます。



スポーツを総合的かつ学際的に学ぶための、最新の施設・設備が揃う環境。広大なキャンパスに動作解析・形態計測室等、最新の施設・設備を擁する「スポーツ健康科学部棟(仮称)」を新たに建設予定です。

京都文教大学の新たな挑戦 すべては「現場主義教育」から始まる

京都文教大学で本年度より新たに行われる2つの取り組みをご紹介します。
キーワードは、京都文教大学の特色である「現場主義教育」です。

大学教育・学生支援事業に採択

本年度、京都文教大学が文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に申請した「**学びと社会をつなぐ資格連動型キャリア支援プログラム**」が採択されました。このプログラムは、京都文教大学の専門性の高い特色ある学びを社会の現場と結び付けるための資格連動型就職支援プロジェクトで、学生の卒業後の進路意識を高め、将来の社会人生活を送るために必要な力を身につけることを目的にしています。

この新たな取り組みについて、学生部キャリアサポート課押領司係長に伺いました。



「現場主義教育」新たな視点
資格講座を通して
学生の進路や就職など、
将来に向けた気持ちを
向上させる

学生部キャリアサポート課
押領司係長

問1: 具体的にどのような事業を行うのですか？

資格講座の開講を核とした事業を展開していきます。本学では各学科が専門性の高い特色ある学びを行う反面、学びと就職のつながりがイメージしにくい状況にあり、これが進路決定や就職活動時のつまづきにつながっていました。そこで、学びと連動した資格取得の講座を開講することで、授業だけでなく、社会でも認められた資格につなげていきます。

本年度は、福祉系の3資格(精神保健福祉士、ホームヘルパー、保育士)国内旅行業務取扱管理者、簿記、販売士、秘書検定を実施します。

問2: プログラム特徴を教えてください。

大学の勉強と資格が連動している点にあります。この事業を、単なる資格講座の開講事業に留めたくはありません。資格講座をなんでも開講するのではなく、本学の文化人類学科、現代社会学科、臨床心理学の学びの特色に連動した講座を開講します。

本学の教育の特色は「現場主義教育」です。キャリアサポート課にとっての「現場」は、社会や世の中です。その社会や世の中にある職業の世界を学ぶ手段として、資格講座を用いて欲しいと考えています。単に大学の勉強だけではなく、世の中・社会につながっていくような資格講座を開講していくことが、一番の特徴です。

問3: 学生にどんな変化を求めますか？

このプログラムで普段の授業からは学べないことを学んだり、将来の仕事に対して興味を抱いたりして、進路や将来選択の幅を広げてもらいたいです。その結果として学生には、学びに対する姿勢や満足度、将来への気持ちを向上してもらいたいですね。

産業心理臨床家養成プログラム開設

今年度より京都文教大学附置機関、産業メンタルヘルス研究所にて始まった「産業心理臨床家養成プログラム」について、名塩総務部長よりお話を伺いました。

問1: 産業メンタルヘルス研究所とは？

この研究所は「働く人の心の健康」を探求する研究機関です。現在研究所では、行政からの研究依頼で労働者・事業者に対して調査を行ったり、企業からの依頼を受けてメンタルヘルスにおける教育プログラムの開発を行ったりしています。それらと同時に、産業心理臨床家の養成という教育プログラムを今年度より開講しています。

そもそも研究所創立のきっかけとなったのが、2007年に行った『職場から「うつ」をなくす』というシンポジウムです。東京と京都で開催し、合計で700社もの企業の方々にご参加いただきました。改めて産業界におけるメンタルヘルスの必要性を認識できたと同時に、産業メンタルヘルスに特化した研究や、対策案が少ないことに気づきました。そこからこの取り組みが始まったのです。



名塩総務部長

問2: 具体的にはどんなプログラムなのでしょうか？

産業心理臨床家養成プログラムは、大学院でもなかなか学べない産業メンタルヘルスに特化しています。

プログラムで一番力を入れているのは、本学の特色である「現場主義教育」です。経験重視の立場から、実習を充実させています。例えば受講生の方には年に10回程、研究所が地元企業や行政向けに実施している研修に同行してもらい、現場で学んでもらっています。このプログラムは受講生から非常に好評ですね。

問3: 産業心理臨床家とはどのような資格なのでしょうか？

産業心理臨床家は、本学が独自で認定しているものです。公的な資格としての展望は今後の社会情勢をみながら検討していきますが、今は資格の認定よりもプログラム内容を重視しています。

産業領域ではメンタルヘルス支援の実用性・実効性が強く求められています。受講生も私たち職員と同じく、今すぐ現場で役に立つ技術の修得を一番に考えています。よってプログラム修了後は、即戦力として「働く人の心の健康」の支援を行ってもらえることを目指しています。

将来的にプログラム修了生が研究所の研究員となり共に研究を行うこと、研究所が大学院の専攻のひとつになること。このふたつが理想ですね。



将来選択まで見据えた「現場主義」という教育方針が徹底されている面に、京都文教大学のこだわりを感じました。特色ある学びを孤立させず、社会と連携させる手段として資格講座を用いることの斬新さと、「現場主義」の幅広さに驚きました。今回のインタビューを通して特色GP、教育GPなどを礎に、京都文教大学の「現場主義」が常に発展し続けていることを知る事ができました。
レポーター: 本多志帆(京都文教大学3回生)

平成21年度 戦略的大学連携支援事業 京都地域での取り組み

Part3

平成20年度から文部科学省による戦略的大学連携支援プログラム(補助事業)が始まり、平成20年度は、全国で94件の申請があり、そのうち京都地域から4つの事業が採択された。本年度は、昨年より25件も申請数が増加し、全国で119件の申請のうち、京都地域から4つの事業が採択された。今号も、積極的に京都地域の取り組みについて紹介する。

京都工芸繊維大学

文化芸術都市京都の文化遺産の保存・活性化を支える 人材育成プログラムの開発・実施

大学間連携の目的

「京都文化芸術都市創生計画」を推進する京都市との連携を基盤に、工学、芸術、語学、文化交流を特色とする4大学の教育研究資源を集結し、国際的な文化芸術都市としての京都を支えるとともに、国内外の文化遺産の保存・活性化とその展開を担う人材を育成します。

連携取組の内容

4大学及び京都市との協働により、京都そのものを大きなキャンパスとして京都の文化遺産を教材に、それらを保存・活性化していく人材を育成します。
具体的には、初年度教育として「文化遺産基礎科目」をコア科目として設置し、次年度教育は4大学の学生の目指すキャリア等を考慮して、「文化遺産活用コース」と「文化遺産保存コース」を設置するとともに、「文化芸術インターンシップ」も実施し、修了時に『コース修了認定証』を交付します。

期待される効果

本取組の成功は、京都(地域)の活動に貢献するとともに、人類共通の文化遺産の保存・活性化は、国際的な貢献も期待できます。
また、4大学が連携して教育することにより、より一層の教育効果とさらなる教育水準の高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化、学生のキャリアパスの確立が期待できます。



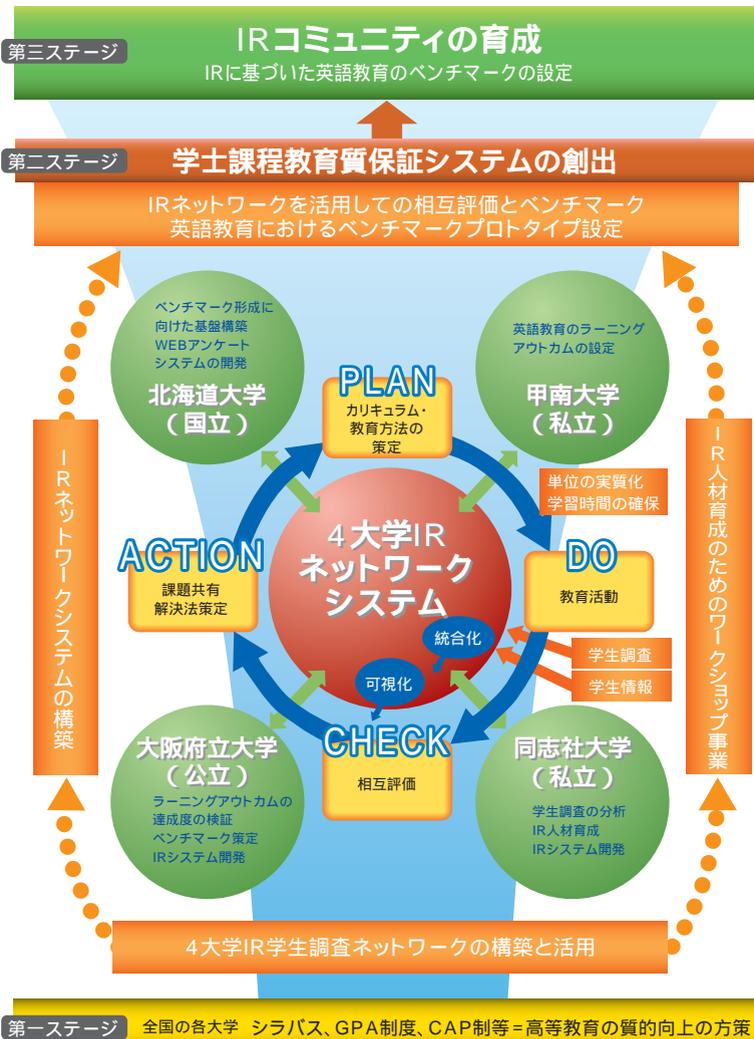
相互評価に基づく 学士課程教育質保証システムの創出 国公立4大学IRネットワーク概要

代表大学 同志社大学

連携大学 北海道大学、大阪府立大学、甲南大学

本取組は、国公立4大学が連携して、教育の質保証を促進するために、学生調査を軸とした客観的なデータに基づいて教育の現状を評価するIR(Institutional Research)機能の充実、IRを活用した連携大学間での相互評価、その評価結果を学生の学習時間の確保、単位制度の実質化に結びつける教育環境の整備を目指すものである。さらに、その成果を学生に対する教育に還元するために、外国語(英語)科目に関する学士課程教育のラーニング・アウトカム目標の設定を目指し、ナンバリング制による課程編成・実施方針の明確化のための具体的方策を展望する。こうした取組を通じて教育の質保証システムを構築することを企図している。また、本取組の最終目標であるIRを基盤とした全国規模の大学コミュニティづくりに向けて、連携大学が協力してIR人材育成を進める。

【連携取組概念図】



連携取組の目的

本連携取組がIRの推進を通じて連携大学間の「相互評価」を活かし、教育の質保証の枠組みの整備を進める趣旨は、「学生本位の改革」を目指すことにある。「単位制度の実質化」の推進には、学生の適切な学習時間の確保が不可欠であり、シラバスの到達目標の達成には、事前・事後の学習の充実と履修科目の適切な選択が鍵となる。それには、学生に関する教務データと学生調査等の評価のデータを組み合わせることで分析し、改善に活かす必要がある。IR(Institutional Research)とは、個別大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用することである。いまだに、多くの高等教育機関では、教育の改善が不可欠であるということは共有されているものの、現状評価を客観的なデータに基づいて行うよりは、経験値に基づいている場合が多い。本取組は、10年という長いスパンで、IRを通じて客観的なデータに基づいた現状評価文化を高等教育機関全体に広げていくことも目指している。本連携取組で行う「IRを通じての相互評価」の主要な課題は、ベンチマーキングのための複数機関間比較を通じて、教育・学生支援及び外国語教育(英語)課程等の充実へと結びつけていく質保証の枠組みの整備とまとめられる。そのために、補助期間内で行われる短期的取組と補助期間終了後の長いスパンで行われる長期的取組に分けて、段階的に戦略的連携を行い、目標を達成していくことになる。

具体的な取組内容

▶▶▶ 短期的取組

補助期間内での取組では、学生の学びの実態把握と教育成果に焦点を合わせた「4大学IR学生調査ネットワーク」を構築し、4連携大学が共有できるデータに基づいた相互評価、その評価結果を反映し、4大学共同で学生の学習時間の確保や単位の実質化に向けた取組の促進、学士課程教育の質保証システムの汎用的モデルとなるIRを構築し、そのノウハウの開発および人材育成を目標とする。

4大学IR学生調査ネットワークの構築と活用

4大学共通の学生調査を活用して学生の自己評価による間接アクセスメントを実施し、3年間にわたり、学生の単位取得状況や学習行動、学習成果、教育の効果等に関する基礎データを蓄積し、分析する。そのための組織として「4大学IR学生調査ネットワーク」を構築する。

4大学間におけるIRネットワークシステムの構築

各連携大学固有のシステムの中から共有できるデータをまとめたシステムを開発し、その分析結果を活用して、連携各大学における教育成果の相互評価を行う。

IRネットワークを活用しての相互評価とベンチマーキング

学生調査の分析結果および収集データをもとに、自己点検・評価および参加大学の相互評価を実施する。

IR人材育成のためのワークショップ事業

IRの仕組みの整備に加えて、連携大学共通の学生調査結果に基づいた分析と相互評価の手法の開発、ノウハウの共有等を通じた、IRに携わる人材の育成を図る。

▶▶▶ 長期的取組

IRシステムを通じて相互評価とベンチマーク策定を行うことにより、教育の質保証の枠組みを整備した上で、その成果を学生教育に還元するため、4連携大学にとって最も共通性の高い「英語」について教育成果を測定し、連携大学が提供する英語科目の共通の到達目標の設定、さらに将来目標としては、英語科目のカリキュラム・マップの作成、科目ナンバリングによる到達度評価システムの確立などを長期的な課題とする。

IRに基づいた英語教育のベンチマーク設定

学生調査の英語のアウトカム評価の分析結果に沿って、到達目標別レベル設定を行い、どの能力のどのレベルを身に付ける科目かを明確化し、4大学間で互換性の確保を目指す。

我が国の高等教育機関でのIRコミュニティの育成

IRという客観的なデータに基づいた現状評価の文化を、4大学だけでなく全国の大学に広げるため、「IRコンソーシアム」の設置を目指す。

理・工・医・薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成 琵琶湖・淀川地域における実践的高度専門人材の育成

取組事業の概要

平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」で選定された「理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成」では、今後の成長産業として期待されるライフサイエンス分野における高度な専門性と課題解決能力を備えた人材を養成する高度専門教育プログラムの構築に取り組みます。琵琶湖・淀川流域に存在する2大学、立命館大学の理学・工学・薬学を含む総合大学としての多様な教育研究資源と、関西医科大学の医学に関する教育研究の資源を活かした理学・工学・医

学・薬学の〈共有 融合 標準化 高度化〉の実現、両大学の互恵的協働、地域における高度専門人材への生涯教育資源の開発・提供を通じて、融合型高度専門教育システムの創成を行います。

「Global Standardに学び、National Standardを創る」をビジョンとして共有して、両大学は、医学・医療を理解した高度専門人材の育成(立命館大学)、基礎医学を支えるライフサイエンスを理解した高度専門人材の育成(関西医科大学)を人材育成目標として、国際水準の高度専門教育の質保証を実現します。21世紀に積み残された環境、食糧、エネルギーに代表される現代の重大な問題並びに新医療制度導入後の基礎医学研究者の激減問題の発展的解決により、地域及び社会に貢献します。

取組内容

大学院高度専門教育プログラムの開発

理学・工学・医学・薬学を含む学際型の学問領域であるライフサイエンスでは、各領域の歴史的背景や研究の進め方・学部の風習の違いを乗り越えて融合した学問領域を体系立てることが求められています。国際水準の海外大学・教育研究機関の教育プログラムの調査研究を行った上で、融合型の大学院高度専門教育プログラムを構築します。また、国際社会における情報発信力を養成するため、英語発信力養成プログラムの開発にも取り組みます。教育システムの構築については、医学部教育において進められている、モデルコアカリキュラムの運用や共用試験による教育及び評価法の標準化の実績を有する関西医科大学と協力して、教育の質保証を図ります。

総合大学と単科医科大学の互恵的協働

両大学のインフラ(イントラネット、図書館、大型機器等)やシステム(データベース等)について共通化・共有化を進めるとともに、両大学間のTV会議システムやVOD(ビデオオンデマンド)運用等の整備・開発も行います。さらに、FD/SDによる教職員の職能開発を通じた教育・事務の効率化を図り、教育研究の高度化を推進します。また、本事業で得られた成果はインターネットや広報誌、セミナーやシンポジウム等のイベントを通じて、積極的な情報発信を行います。

医療・医学領域の教育リソース提供による地域貢献

地域社会における医療従事者、高度専門職、地域関係者に対して、生涯教育プログラムの開発・提供を行います。また、企業との連携強化については、地域との協力体制の整備を図ります。地域の医療・健康分野産業と教育研究分野における連携を強化するとともに、地域・企業ニーズを教育システムに積極的に取り入れます。



国際連携プログラム

取組事業の概要

平成21年度文部科学省補助金「大学教育充実のための戦略的国際連携支援プログラム」において採択された「多面的な国際交流の充実と高等教育の質向上に向けた国際連携プログラム開発」は、現行の個別大学間の交換留学協定等を、複数大学対複数大学の協定へ拡大すると共に、教員や職員の研修・交流等を含んだ広範囲な交流連携内容に充実することにより、国境を越えたネットワークやパートナーシップを確立させ、高等教育の国際競争力の向上や教育の質の保証と向上を目指す取組です。

具体的には、複数大学間の留学制度として、短期・中期・長期等の様々

な留学プログラムの開発を行うと同時に、多くの留学生を受け入れることにより、学生の異文化理解と国際的視野の育成を促進させます。また、教職員の研修・交流プログラムを開発すると同時に、教育に関する評価等を調査・研究することにより、教職員の職能開発や意識改革を促し、日本の大学の国際的評価の向上を図ることにより、優秀な留学生の獲得を目指します。更に、将来的には国境を越えた単位互換制度の創設やダブル・ディグリー制度導入促進を目指し、教育の質やその提供する内容を国際的水準に合致させることを目指します。

取組内容

1 短期留学プログラム、中期・長期留学制度創設

社会のグローバル化、ボーダーレス化、知識基盤社会の中で、国際性と創造性を兼ね備えた真に国際的視野を持った人材育成を行うため、京都市やオーストラリア大使館等の協力を得ながら、オーストラリア・ヴィクトリア州の複数大学とアメリカ合衆国ボストンの大学コンソーシアムと連携し、現在の「大学対大学」の留学制度を基礎として、「大学連携体対大学連携体」の留学制度の開発を目指します。このことにより、より多くの学生に留学する機会の提供や多文化交流時代に対応した国際的視野をもった学生を育成できると同時に、大学規模やレベルによらない国際化の展開が可能になると考えます。

なお、短期留学プログラムについては、留学の費用対効果を高めるための事前学習や、留学後に自学自習の継続を促進するための事後学習も併せて開発します。

2 教職員連携プログラム

高等教育の質を向上させ、国際競争力を向上させるためには、教員の積極的関与が必要不可欠です。更に、将来、eラーニングの活用等を図り、国境を越えて高等教育を提供する場合においても、その提供する教育の質の保証を行わなければならないため、教員の意識改革と職能開発を促進させる仕組みが必要であります。また、各大学の教育の質の保証を行うための仕組みや、留学生等に提供する科目の質保証を行うための教育研究環境の構築等、様々な取組を支える職員についても、同様のことがいえます。

そこで、教育の質を国際水準に引き上げるための相互交流・情報交換等を行うネットワークやパートナーシップの構築を行うと共に、人材育成を主体的に担う教員や教育をサポートする職員の職能開発と意識改革の促進を目的とした研修・交流プログラムの開発を行う予定です。例えば、今回の連携大学の教員が、海外連携先大学で授業を行い、現地の教員や学生がその授業評価を行う等のプログラムが考えられます。

3 その他

国際インターンシップ制度の検討

異文化理解を促進させる仕組みの一つとして、インターンシップの活用も視野にいれ、その仕組み等の検討を行います。併せて、将来日本企業に就職を希望する留学生のキャリアアップ、キャリアパスとしての人材育成を目的とした仕組みについても検討を行う予定です。

単位互換制度の検討

現在の単位互換制度を、教育の質を同等とすることを前提に、今後の知識基盤社会に伴い訪れるであろう国境を超えた高等教育機関等の知識の授受に対応し、国際的な単位互換制度創設について検討を行う予定です。

教育評価等の国際的指標の検討

教育の質やその内容等を国際的水準に近づけるため、連携国における様々な評価に関する調査・研究を行い、将来の大学改革や、国際水準に基づいた教育の質の保証、更に国際的な単位互換やeラーニングの導入を目指します。また、各大学がダブル・ディグリー制の導入を目指す環境の創出を目指します。



高等教育研究推進事業部

高等教育研究事業

◆2009年度大学職員共同研修プログラムを実施

都市ブランドとはなにか、京都という都市が持つブランド力について、文化、モノ作り、観光といった多様な視点から考えていく講座を開講しました。受講者数は延べ313名。

プログラム名	開講日	対象	参加人数
ビジネスマナー研修	3/25(水) 26(木) 27(金) 6/12(金)	新規採用者	92人
プレゼンテーション研修	8/1(土)	勤続3年以上	25人
アカウントビリティー研修	8/4(火)	勤続3年以上	48人
企画力向上研修	8/6(木)	中堅職員以上	29人
問題解決力向上研修	8/7(金)	管理職	17人
コーチング研修	9/1(火)	中堅職員以上	39人
メンタルヘルス研修	9/3(木)	全職員	28人
交渉術+対人対応研修	9/4(金)	管理職	16人



総務・広報部

全国大学コンソーシアム協議会

◆第6回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

- 【日時】平成21年9月12日(土)~13日(日)
- 【場所】北海道教育大学函館校
- 【主催】全国大学コンソーシアム協議会
- 【共催】キャンパス・コンソーシアム函館
- 【メインテーマ】「コスモポリタンな地域づくりと高等教育連携」
- 【参加者数】合計:305名(講師など含む)
- 【基調講演】「大学教育改革の焦点」
金子元久氏(東京大学教育学部 教授)
- 【シンポジウム】金子元久氏(東京大学教育学部 教授)
西尾正範氏(函館市長)
義本博司氏(文部科学省高等教育局高等教育企画課長)
- 【コーディネータ】中島秀之氏(公立はこだて未来大学学長・キャンパス・コンソーシアム函館会長)

【分科会参加人数】

1日目	第1分科会	新しい教育プログラムの開発(実践力の育成)	97人
	第2分科会	FD・SD事業(大学間連携によるFDの推進)	77人
	第3分科会	コンソーシアムの組織運営	78人
2日目	第4分科会	「大学の国際化 留学生30万人構想への対応」	57人
	第5分科会	戦略的大学連携支援の採択大学的事例発表	94人
	第6分科会	地域との連携・社会貢献	91人



京都学生アートオークション

京都の芸術系大学で学ぶ学生が、作品をとおして社会、アートマーケットに触れることで、「芸術家」としてのキャリアプランの導入部分を経験し、今後の進路形成の一助とするものです。

特に今年度は、連続講座に力を入れ、芸術家に必要な見識を深めてもらう機会としたいと考えております。

さらに、京都の市民・企業が学生の作品を購入することで、産・学・地域連携による京都の地で芸術家を目指す学生を育てるしくみ、さらには新たなアートマーケットの創出を目的としています。

連続講座

【回】	【日時】	【会場】	【テーマ・講師】
1回	7月4日(土) 18:20~21:30	キャンパスプラザ京都 5階 第1講義室	「アートビジネス」「アートマーケット」 柴山 哲治氏
2回	8月6日(木) 18:20~21:30	キャンパスプラザ京都 4階 第3講義室	「作家とギャラリー」 「アートの世界、次代の担い手」 柴山 哲治氏/石田 克哉氏/ 山口 典子氏/長谷川一郎氏/ 亀井 章代氏
3回	9月2日(水) 18:20~21:30	キャンパスプラザ京都 4階 第3講義室	「買い手(コレクター)の歴史」 「アートオークションと知的財産」 柴山 哲治氏/木下 孝彦氏
4回	10月17日(土) 18:20~21:30	キャンパスプラザ京都 4階 第3講義室	「プレゼンテーション概論」 島先 京一氏
5回	11月7日(土) 18:20~21:30	キャンパスプラザ京都 4階 第3講義室	「プレゼンテーション実践」 島先 京一氏

どなたでも受講できます。(受講無料)

プレビュー 2010年2月9日(火)~14日(日)
10:00~21:00 最終日13:00まで
キャンパスプラザ京都1階 情報交流プラザ

オークション 2010年2月14日(日)15:00開始
キャンパスプラザ京都1階 情報交流プラザ

- 主催** 財団法人大学コンソーシアム京都
- 企画運営** 京都学生アートオークションワーキンググループ
- 企画運営補助** 京都学生アートオークション運営スタッフグループ
- 後援** 京都府、京都市、京都商工会議所、(社)京都経済同友会、京都新聞社、近畿経済産業局、四条繁栄会商店街振興組合、全日本画材協議会、KBS京都
- 協賛** 株式会社フラットエージェンシー、ホルベイン工業(株)、ホルベイン画材(株)、(有)画箋堂、ターナー色彩(株)、ナカガワ胡粉絵具(株)
- 協力** (株)AGホールディングズ、京都駅ビル開発(株)
- 対象** 京都の芸術系10大学に通う大学生・大学院生

池坊短期大学、京都嵯峨芸術大学、京都工芸繊維大学、京都教育大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、大阪成蹊大学芸術学部、成安造形大学



● 京都の大学「学び」フォーラム2009

京都の大学「学び」フォーラムとは、京都の大学・短期大学が集まり、高校生や受験生のみなさんに各大学の特色ある模擬講義や体験型講座等を提供し、興味のある学問分野をひと足先に体験するイベントです。今後の学習意欲が高まり、みなさん自身の将来像もよっつきりと見えてくるはずですよ。

福知山会場

開催日 2009年10月4日(日) 11:00～16:00

会場 京都創成大学

(JR福知山線・山陰本線「福地山」駅南口より無料シャトルバスを運行)

京都会場

開催日 2009年10月31日(土) 9:00～15:00

会場 大谷大学(地下鉄烏丸線「北大路」駅南)



● 第7回SD(スタッフディベロップメント)フォーラム

全国の大学職員の研修・交流の場として「SDフォーラム」を開催しています。7回目を迎える今年度は、中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(平成20年12月24日)にも「大学職員の職能開発」が強調されているのを受け、「教育の質向上を支える職員の職能開発」をテーマとし、基調講演を行うとともに、6つの分科会を設け、学生の受入れから卒業に至る各段階で先進的な取り組みを行っておられる大学より事例報告をいただき、「大学職員の職能開発」について多角的に論じます。また、事例報告後に参加者全員で意見交換を行い、SDフォーラムで得られた成果を今後の個別大学・短期大学における人事政策や人材育成に活かしていただくことを目指します。



テーマ 教育の質向上を支える職員の職能開発

開催日 2009年10月18日(日) 10:00～17:30

会場 キャンパスプラザ京都

申込期限 2009年9月11日(金)

(既に定員充足のため追加のお申し込みはお受けできません。)

● 第7回高大連携教育フォーラム

「高大連携教育フォーラム」は、全国各地から高等学校・大学の関係者が多数参加し、高等学校・大学間の連携・接続問題における「国内動向の情報共有と京都における取り組みの情報発信、および事例研究」を開催趣旨として、大学コンソーシアム京都も加盟する「京高大連携研究協議会」の主催により開催されています。第1部はシンポジウム形式にて、第2・3部では各テーマ設定に基づき、高等学校・大学の現状を報告し、意識共有・情報交換を行う分科会形式にて開催します。



開催日 2009年12月4日(金) 10:00～17:15(予定)

会場 キャンパスプラザ京都

プログラム 第1部

【基調報告】テーマ「高大連携から接続教育への視点
高大で考える「生きる力」の育成」
報告者:塩瀬 隆之(京都大学総合博物館 准教授)

基調報告終了後シンポジウムや事例発表も予定しています。

第2部

【分科会】「キャリア」・「入試」

第3部

【分科会】「表現技法」・「数学」・「英語」・「理科」

参加費 京都府内の高等学校・大学関係者1,000円・それ以外2,000円

申込方法 所定の用紙にてFAX申込(先着順)

各分科会詳細や申込方法等詳細は、ホームページでも公開します。

● 芸術系大学作品展2009～ART UNIV.2009～

芸術系大学作品展は、2000年のキャンパスプラザ京都竣工を記念して始まった芸術系10大学の学生による合同作品展です。多くの大学が集積する「大学のまち 京都」ならではの大学や分野の垣根を越えた交流、連携があってこそ開催できる展覧会といえます。

大学をとりだし、まちなかで作品を展示することは、学生の作品や創作活動を広く紹介する機会となり、学生と地域との交流の場の創出を促します。本財団は、大学と地域が連携を図りながら文化芸術によるまちづくりが実現することをめざしております。

10回目の開催を迎え、記念の年となる今回は、これまでのキャンパスプラザ京都、元・立誠小学校に、池坊短期大学 むろまちアートコートを加えた3会場で開催いたします。立地もおもむきも異なる3つの会場の個性を活かした展示により、学生作品の新たな魅力を引き出します。若い感性がほとばしる学生たちの渾身の作品をぜひお楽しみください。



開催日 2009年11月10日(火)～11月22日(日)

会場 キャンパスプラザ京都

10:00～21:00 ただし、11月16日(月)は休館日

元・立誠小学校

12:00～19:00

池坊短期大学 むろまちアートコート[新規会場]

12:00～18:30

関連企画 オープニングパーティ

11月10日(火) 18:00～ 元・立誠小学校

藤脇慎吾氏特別講演

11月15日(日) 14:00～

キャンパスプラザ京都 4階 第2講義室

藤脇慎吾氏……………

グラフィックデザイナー、京都市立芸術大学非常勤講師

主な仕事に、WACOAL MUSEUM オープニングイメージ開発、

兵庫県立美術館シンボルマーク開発等

主催 財団法人大学コンソーシアム京都 芸術系大学作品展実行委員会

共催 立誠・文化のまちプロジェクト運営委員会

後援 近畿経済産業局、京都府、京都市、京都商工会議所、(社)京都経済同友会、京都新聞社、京都 知恵と力の博覧会 推進協議会、四条繁栄会商店街振興組合、全日本画材協議会、KBS京都、NHK京都放送局

協力 池坊短期大学、京都橘大学、京都駅ビル開発(株)

協賛 (株)フラットエージェンシー、ホルベイン工業(株)、ホルベイン画材(株)、(有)画箋堂、ターナー色彩(株)、ナカガワ胡粉絵具(株)

参加大学 【出展】京都の芸術系10大学

池坊短期大学、京都嵯峨芸術大学、京都工芸繊維大学、京都教育大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、大阪成蹊大学芸術学部、成安造形大学

【運営】京都橘大学

● 第12回京都国際学生映画祭実施概要

開催日 2009年11月21日(土)～28日(土)

会場 【京都シネマ】 21日(土)～27日(金)

【立命館朱雀キャンパス大講義室(授賞式)】 28日(土)

企画概要 (1)コンペティションプログラム

国内外から集まった学生映画247本を、学生実行委員が審査し、入選作品12作品を決定。そして現在映画・映像関係の現場において第一線で活躍されている最終審査員の方々に審査してもらい、グランプリ、準グランプリを決定します。

(2)特別プログラム

・第81回米國アカデミー賞短編アニメーション賞受賞 加藤久仁生

監督作品特集上映

「“つみきのいえ”に至るまで～加藤久仁生学生時代を振り返って～」

・「越境者たち～科学映画&芸術映画特集上映～」

科学映画と実験映画・抽象映画など芸術映画の特集プログラム。

・「学生って何んだい? サイレント青春映画 活弁上映」

最年少活弁士 麻生子八咫さんによる活弁

上映作品 小津安二郎監督「落第はしたけれど」(1930)

主催 財団法人大学コンソーシアム京都

企画運営 第12回京都国際学生映画祭実行委員会

料金 ・フリーパス券:2,000円

本祭期間中全てのプログラムに適用するフリーパス券。カタログ付き。

・1プログラム券:500円

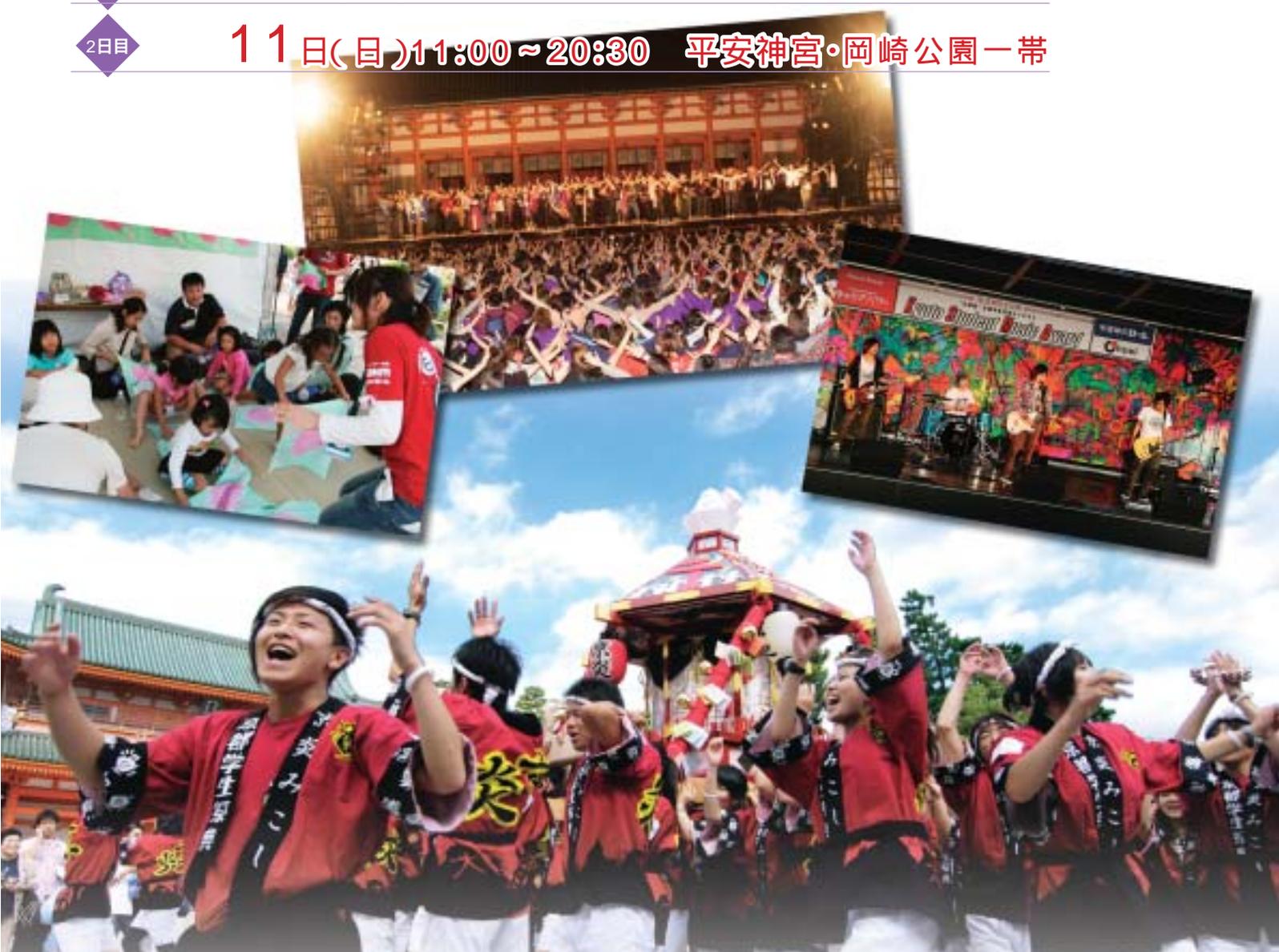
全てのプログラムのうち1プログラムに適用。

第7回京都学生祭典を開催します!!

【主催】京都学生祭典実行委員会

1日目 10月10日(土)13:00 ~ 18:00 京都駅ビル

2日目 11日(日)11:00 ~ 20:30 平安神宮・岡崎公園一帯



● 第7回京都学生祭典のご案内

産・学・公・地域の協力のもと、学生プロデュースで京都を盛り上げる秋の祭・京都学生祭典。

第7回では、「笑顔ひろがる京都の祭～進化”から”深化”へ～」をコンセプトに、「京都のまちをさらに笑顔や活気あふれるまちにしていきたい!」という想いを込めて祭を創りあげています。

1日目は、京都駅ビルで行う全国学生音楽コンテスト「Kyoto Student Music Award」や「KYO - SENSE企画」などを開催。

2日目は、「京炎 そでふれ! 全国おどりコンテスト」や「縁日」をはじめ、今年は環境への取り組みを発信する「KYO SENSEプロジェクト」の充実や、留学生を巻き込んだ「国際化」の企画を盛り込み、学生から一般の方まで老若男女問わず全国の皆さんに楽しんでいただける企画を用意しています!!

そして、第7回京都学生祭典の最後を飾る「Grand Finale」では、京都学生祭典オリジナル創作おどり「京炎 そでふれ!」を来場者・出演者あわせて6,000人もが一緒におどり、平安神宮境内を熱気で包み込みます。

祭に参加してくださる皆さんと笑顔と感動を分かち合う2日間にご期待ください。

「Grand Finale」は事前の入場券制で、当日の入場券はありません。

詳細・最新情報は公式ホームページへ!

<http://www.kyoto-gakuseisaiten.com/>

京都学生祭典

検索

モバイルサイトへは・・・▶



大谷大学短期大学部

CAMPUS SCENE



本学は、京都市内北部の交通拠点「烏丸北大路」に位置し、親鸞の仏教精神に基づいた人間理解を教育の根幹とし、仏教科・文化学科・幼児教育保育科を設置しています。写真の建物は、大正2年、併設の大谷大学が東京から現在地に移転した際に建てられた尊源館(じんげんかん)です。国の登録有形文化財に指定され、現在でも教室として使用されています。学生たちを見守り続け、学生たちの心象風景に残る、大学を象徴する役割を担う建物です。